



所沢市立北野中学校 学校だより 令和6年度10月号

# 北野中だより

校長



## 「ピンチはチャンス!?!」 ～人類は、ピンチをチャンスとして発展～

※今回は、穴埋め問題です。( )の中に入る言葉を考えながら読んでみてください。

人類の歴史について、お話をします。大昔のことなので、当時の状況を知っている人は存在せず、また文献等の記録もないため、以下の内容は、いくつかある説のうちの一つです。

今から1万年ほど前に最後の氷期が終わり、気温が上がり始めると、地球上の動植物に大きな影響を与えます。植物の分布状況が変化し、たくさんの草を食べていた大型草食動物はその変化に適応できずに、数が大幅に減ります。動きの鈍い大型草食動物を食料としていた人類は、人類存亡の危機・ピンチを迎えます。やがて、(① と )の発明で、小型で動きのすばやい動物をとらえ食料とすることができるようになりました。また、(② )の発明により固い木の実を煮て柔らかくして食べたり貯蔵したりすることができるようになり、人類はピンチを乗り越え発展しました。

また、ある時代に地球環境が大きく変化し、特にアフリカ北部は急激な乾燥化が進み、森だったところは、現在世界最大の砂漠である(③ 砂漠)になりました。急激な乾燥化の中で、北アフリカの人々は水を求めて移動し、やがて(④ 川)流域へとたどりつきました。この川周辺は、今までの人類の歴史始まって以来の人口過密地域となり、慢性的な食料不足、人類存亡の危機・ピンチを迎えます。この人口集中の中で、やがて(⑤ )が始まり、計画的に食料を生産し貯蔵することができるようになり、人類は発展します。

ヨーロッパでは、人類が食べやすい木の実が少なく、食料の確保が難しいため、人類存亡の危機・ピンチを迎えます。やがて、動物を家畜化し、固い木の実を家畜に食べさせその家畜を人間が食べるという形での食料確保が進みました。

また、集団で協力しなければ食料確保が難しかった時代に、言葉や文字が発展したとも言われています。

人類の歴史を見てみると、結果論かもしれませんが、「ピンチ」を「チャンス」にした歴史があります。また、そのピンチの乗り越え方は、決して一人で行ったわけではなく、たくさんの人々の協力で乗り越えたものです。きっと、お互い苦しい時に周りの人に「助けて」とSOSを発信し、それを周りの人々が受け取り協力していったと考えられます。

「ピンチをチャンス」ととらえること、周りに「助けて」と発信し、協力を求めることの大切さを、人類の歴史は私たちに語りかけているのかもしれません。

答え ①弓(と)矢 ②土器 ③サハラ(砂漠) ④ナイル(川) ⑤農耕

※サハラは、現地の言葉で砂漠を意味するので、サハラ砂漠という言い方は「砂漠砂漠」という意味になってしまう。